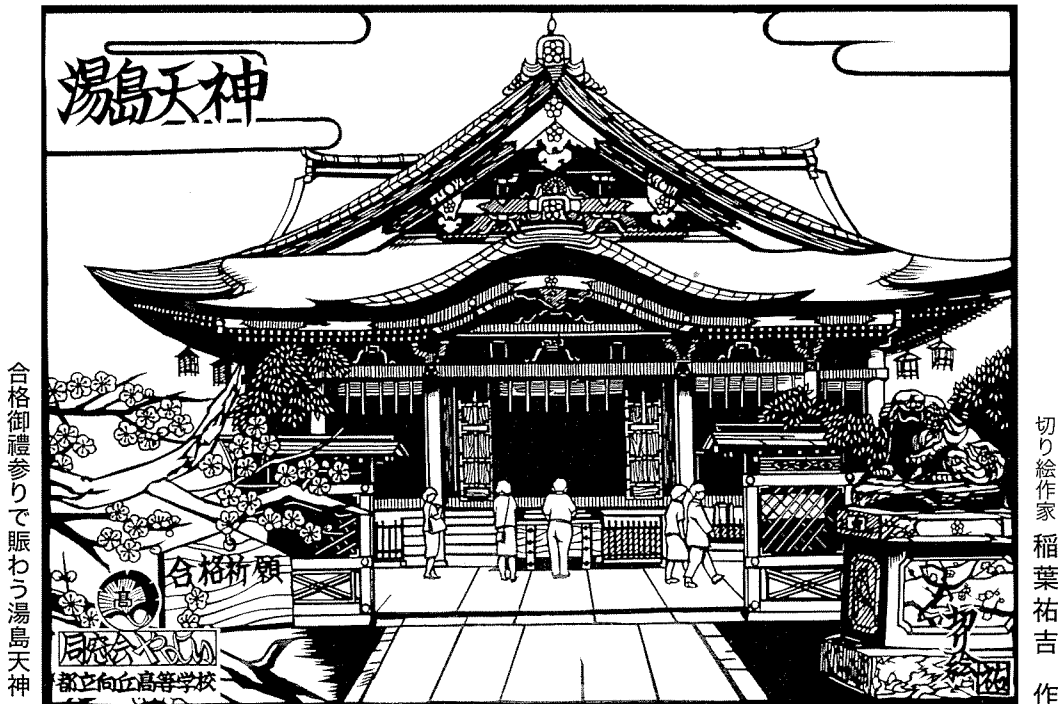


発行責任者 都立向丘高等学校同窓会
 会長 小川力洋
 編集 会報委員会
 事務局 〒113-0023
 東京都文京区向丘1-11-18 向丘高校内
 TEL 3811-2022
 FAX 3812-4055



同窓会活動のご案内 (やよい会)

■平成17年4月24日 (日)

☆総会 受付13:00
 開始13:30~14:15
 (会務・会計の報告・審議)
 ☆記念演奏会 14:30~15:30
 出演: 母校吹奏楽部員
 指揮: 原田 亮先生
 (17年1月6日(木)東京都吹奏楽連盟主催のアンサンブルコンテストに出場し、下記のとおり受賞した)
 ◎金管楽器部門管打八重奏の部で銀賞
 ◎打楽器部門四重奏の部で銅賞
 曲目: 多種多様にてご期待下さい
 対象: 会員・保護者・一般
 入場無料 (お誘い合わせ下さい)
 ☆懇親会 16:00~18:00
 アトラクション (フォークソング部OB演奏、ゲーム、抽選会等) あり
 参加費: ¥3,000 (但しH16・17年卒業生は無料です。各級幹事がおまとめの上、会長まで人数をお申し込み下さい)
 申込方法
 4月15日(金)までに同封の用紙にてお振込下さい。
 場所
 すべて母校6階多目的ホール

■平成17年5月28日 (土)

☆やよい会中京大会
 式典 受付12:00 開始12:30
 ☆懇談会 13:00~15:00
 参加費 ¥5,000 (但しH16・17年卒業生は¥2,500)
 場所 名古屋市中区栄4-3-10
 中国大飯店新館
 TEL 052-261-6611・0120-20-6611
 地下鉄東山線栄駅下車12番出口東へ1分
 申込・〆切 5月14日(土)までに同封の用紙の“その他”の欄に中京大会費とお書き込みの上お振込下さい。
 ◎2005年日本国際博覧会のご案内
 ◇宿泊希望者は先着10名まで¥6,000 (1人当り・素泊)にて予約受け付けます。前記同様お振込下さい。
 場所 名古屋市中区錦3-13-30
 サン・ホテル
 TEL 052-971-2781
 地下鉄東山線栄駅下車1番出口西へ徒歩3分
 ◎愛・地球博 (開催期間3月25日~9月25日)
 ◎普通入場券 (チケットぴあ・コンビニ等で販売)

大人18才~65才未満 ¥4,600
 (前売券3/24まで¥4,100)
 中人18才未満 ¥2,500
 (前売券3/24まで¥2,300)
 小人 ¥1,500
 (前売券3/24まで¥1,400)
 シニア65才以上 ¥3,700
 (前売券3/24まで¥3,300)

■平成17年9月24日 (土)

☆学校訪問 (ホームカミング会)
 セミナー 16:00~17:00
 課題 “俳句は頭の活性化”
 講師 檜 紀代 (俳号) [佐藤(安藤)令子(S31)]
 料金無料
 ☆懇談会 17:00~18:30
 参加費 ¥2,000 (要予約・当日払可)
 場所 母校B棟4階視聴覚教室
 ※母校向陵祭(文化祭)が9月23日・24日 (PM3:00終了)開催されます。ご参観かたがたご参加下さい。
 総合問合わせ先
 〒114-0012
 東京都北区田端新町1-27-11
 東京都立向丘高等学校同窓会
 会長 小川 力洋
 TEL 3893-9792(代)
 FAX 3893-9793

《御挨拶》

極限創造の愛知万博
千載一遇 集おう中京大会



同窓会長
小川 力洋

そもそも万博熱は福沢諭吉らが遣使使節団として出向した時から始っていた。マゲを結んでいた侍達が見た世界は余程衝撃だったことであろう。

この参加が国威高揚の場と受けとめられて来た。明治政府時代から機運はあつたが、時期尚早として見送られた。一九四〇年(昭十五)開催決定までになったが、第二次世界大戦の勃発で中止となった。この時の申し子が隅田川に建設された勝鬃橋という。

一九七〇年(昭四十五)ついに大阪万博が「世界の国からここにちほ」のテーマソングで開催され、史上最高の入場者(六四二二万人)で日本中が沸き立ったものだ。万博とは何なのか。文明の交流会、世界中の人・食・文化に出会える機会だ。二十世紀最初の今回のテーマは「自然と睿智」として、国境を越えた仲間たちとともに、自然と人との共生・科学が育む人との懸け橋となる。

従来、工業製品や物産展から芸術・文化・科学的な様相になり国際博覧会条約が制定され、テーマ性が求められ、秩序だった現代の万博が形成されて来た。秩序だった現代の言葉や肌の色と様々な宗教をも超越された交流で、平和と友愛こそ最大の産物と魅力となる。

所で、我が「やよい会メンバー」も、世界とは言われないが全国には一万数千人が存在している筈だ。人生の人間形成時代を省みたくて懐しき母校・友人との交流があつても当然ではないだろうか? 生と生けるものか、必ずや今世との別れがあるものか。友を貴び又とない貴重な万博年を機会に同窓の友等、集り未来へのメッセージをも語ろうではないか。

※詳細は表紙下部をご覧ください。

今、学校では



校長
石井 隆夫

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は小川会長始め皆様には本校に對しましてご理解とご協力をいただきまして、大変ありがたく思っております。

ここ数年、本校への入試倍率の高い状態が続いております。中学生の本校に寄せる期待にしっかりと応えるよう、教職員一丸となつて力を注いでいるところでございます。特に期待に胸を膨らませて入学した生徒が、未来に向かつて明るい希望と展望を持ち、心身ともに健康で生き生きとした生活を送り知性と感性に富んだ人間性豊かな社会のよき形成者として成長してもらいたいと取り組んでおります。

何事にも基礎、基本を大切に「人間として、あたり前のことがごく自然にできるよように」させたいと思っております。

さて、二十一世紀の今日科学技術の進歩、人々の価値観や意識の多様化など社会の変化は激しく混沌としています。また情報化、国際化、高齢化、少子化が進む中で、高校教育はその大きな影響を受けてきました。一方、不登校や中途退学等の学校不適応、薬物乱用など非行の増加、青少年の凶悪犯罪など社会問題が多発し課題が山積しています。

これらの高校教育は学校が家庭と地域の連携を深め、同窓会の力を借り社会の激しい変化に對して改善される必要がありまします。量から質へ、画一から個性重視、即ち生徒一人一人の能力・適性に於いた教育へ、知識偏重から生徒自らが主体的に考え行動できるための教育へと転換していくことです。このことは中央教育審議会、教育課程審議会など各種の答申で指摘され、国や都でも重点施策としてあります。

本校はこの理念を先取りし、自主、誠実、明眼を校訓に精神の涵養を目指し取り組んでまいりました。現在学校は活気あふれる生徒

の声、表情が校内にあふれ生徒は学校生活に意欲的に取り組んでいます。

これらにすべて、先輩の皆様が築いてこられた伝統、文化、自由の中にも規律のある校風を生徒が理解してくれたものと、同窓会の皆様は深く感謝申し上げます。

最後にありがとうございました。陸上競技部大越里美さんが春の関東都立大会に出場いたしました。また秋には東京都新人大会(四百メートル二位、四百メートルハードル五位)で全関東大会に出場しました。春秋連続で関東大会に出場し、快挙に對しまして、全生徒の前で表彰いたしました。その際同窓会からは遠征費の補助と称賛と激励分をこめた懸垂幕のご寄贈をいただきました。今も校舎に翻っており、本人はもちろん全生徒の励みになり非常に勇気づけられたとの声が校長室に寄せられました。厚くお礼申し上げます。

今後とも同窓会会員の皆様には、学校運営に資する様々なご意見ご支援をお願いし、また同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。

学校だより



副校長
飯田 幸男

卒業生の進路状況―多様な進路と推薦受験者の増加

本校の卒業生の進路は大学、短大、専門学校等への進学、就職と多岐にわたっています。昨年の内訳は四年制大学三〇・四%、短大一・三%、専門学校三〇・九%、就職二二・二%、浪人その他二五・二%となっています。さらに最近の傾向としては大学、短大、専門学校とも推薦(指定校、公募)による受験者が多くなっています。二〇〇九年には大学の入学定員と志願者数がほぼ同数となり数値の上では大学全入という状況になると言われていますが、それがさらに二年早まるとの予測もあります。こうした状況下、大学側も学生確保のために入学試験でも推薦入試やAO入試といった様々な工夫をしています。推薦受験者の増加傾向もこうした大学側の動きに對する受験生の反応の現れといえます。

陸上競技部大越里美さんが昨年六月十八日、埼玉県で開催された関東都立大会、十月十六日、茨城県で開催された関東選抜新人大会に女子四百メートルの東京都代表として連続出場しました。大会出場に際して同窓会から遠征費の補助をいただくとともに関東大会出場を祝す懸垂幕を寄贈していただきました。この懸垂幕は正門を入った正面の校舎の壁面に掛けられております。生徒達は身近な仲間が関東大会に出場できたということで自分たちも練習に励み、普段の練習にも一層熱が入ってまいりました。同窓会の皆様は心より感謝申し上げます。



向陵祭―学校が一体となった文化祭

第五十五回向陵祭が昨年九月二十五日(土)、二十六日(日)の二日に行われました。二日間とも雨模様でしたが、天候にもかかわらず約二、五〇〇名の文化祭は全日制、定時制合同で実施し、またPTA、同窓会、同窓生にも参加していただき生徒、保護者、同窓生が一体となった文化祭を毎年開催しています。生徒会では新たな試みに挑戦するなど準備段階から熱心に取り組んでいました。クラス、部活、有志の四十余りの団体がそれぞれの持ち味を生かした展示や発表を行いました。当日は、本校への受験を希望する中学生も数多く来校し、熱心に受験相談を受けていました。

在校生と卒業生との交流―吹奏楽部、同窓会総会にて演奏

毎年恒例の同窓会の総会が昨年の四月二十五日に本校六階の多目的教室で行われ、吹奏楽部部長が招かれて演奏を披露いたしました。当日は、小川行治氏(三十七年卒、小川会長)の弟さんがバンドリーダーを務め、小川会長、ズバンドの演奏とともに、在校生達の演奏を楽しんでいただきました。また、吹奏楽部は今年一月六日開催された第二十八回東京都高等学校アンサンブルコンテストに出場し、打楽器部門、打楽器四重奏で銅賞、金管楽器部門、管打八重奏で銀賞を受賞しました。部員一同、益々意欲を燃やして練習に励んでいます。今年、四月二十三日(土)本校体育館にて定期演奏会を予定しています。

同窓会活動報告

おまかせの総会 中身濃厚なる仲良懇親会

会報十四号誌でご案内のとおり、四月二十七日(日)母校六階多目的ホールにおいて、午後一時半から総会が開かれた。参加者が珍しい程に少なかった。何故だろうか?多忙極めておいでな会員ばかりではない筈だと思いが、執行部役員に「ご一任」だとはいたしましても、有難いというべきなのか?

記念演奏会となると、会員、近隣ピジターが参加され、都大会で金賞を受賞という母校吹奏楽部の真面目な態度や素晴らしい演奏に拍手喝采だった。

続いてセミプロらしきOB小川行治氏(昭三十七)が率いる「プウアーゴッツ」のビッグコンボジャズグループ演奏ではサクセス・トロンボーン・トランペット・ギター・ドラムスにボーカルと勢揃いのトレモロに観衆は満足、魅了された模様だった。

第二部の懇親会は沢山の卓盛料理を並べて、橋本力先生に來賓代表の挨拶を頂き、坂井哲夫先生に乾杯の音頭を願った。

アトラクションにはフォークソング部OBが演奏して下さり色どりを添え場を盛り上げてくれた。恒例の抽選会も様々の品物があり興味をひいたが、特に鳥居順子氏(昭五十三)ケンゲームで何んとホームカミングセミナーを引受けて下さった小沢玉枝氏(昭五十五)の手中に納まったとはご褒美か?

いずれにせよ、楽しく快い「仲良し会」を続けているので、大勢に関心を抱いていただけることを願っている。その都度、学校側のご理解・ご協力に甘える所が大であり、誌面を借りて御礼申し上げたい。(役員一同)



16. 4. 25 懇親会場で乾杯の音頭をとる坂井先生

西日本大会幹事として



S 31年卒
高尾 和子
(旧姓 杉本)

母校より遠く離れた方々のためにと、昨年より同窓会を地方でも開けるようにとの小川会長のご配慮により、西日本大会としてまず大阪八尾にて開催できましたことは、まことに有難い事でありました。

開催地を足がかりとして同窓会の意義を深めるとともに旅行の楽しみも加味されて交友連絡が取ればこの上ない事と存じます。今後も少しずつ良い企画を模索しつつ皆様のご協力をお願いしてまいりたいと存じます。宜しくお願いいたします。

関西大会参加から

近江路を旅する



S 34年卒
石山彼早子
(旧姓 佐伯)

六月の末に関西地区での同窓会の企画に賛同し、出席させて頂きました。

終了後、個人的に小旅行という段取りで計画を立てられた先輩に便乗し、近江のお城を訪ねて歩く旅に出掛けました。まず手始めに夜の大阪城を見学しました。ライトアップされた昼の顔とはまた別の趣があり感動しました。

翌日は、安土の歴史資料館に行き信長の業績の展示品を見ることが出来ました。安土城天守閣の模型には目を見張る思いでした。歴史に「もし」はないと云われますが、もし信長が天下を取っていたら今どうなっているのやらと思ってしまうました。安土城址の麓までは行きましたが石段の道にはどうしても体がついてゆけず断念しました。午後は彦根城

に行き皆さんと一緒に城の天守閣に昇り彦根市を一望し、ゆったりとした心洗われる気持ちでした。

翌日は長浜より琵琶湖遊覧船に乗り竹生島に渡り秀吉の御座船で造られた舟廊下を渡り何百年の永きに渡り保存されている遺跡の重みを感じたりと脳裏に刻み、日本独特の文化が息付いている空間を感じられ、清々しい気持ちと充実感が得られ素晴らしい旅でした。同行をさせて頂いた先輩に深く感謝致します。

向陵祭の報告

笑顔は文化を伝える

向陵祭は九月二十五日、二十六日の両日行われた。やよい会(同窓会)も例年の通り、PTAの部屋の一角に出展した。準備は前日数名で、生徒やPTAの皆さんの熱気を受けて行った。PTAのテーマは「そだてようGAKKAのスピリット」。

私たちは「遠くて 近い国」。やよい会の会員が「南米のペルー」と「中央アジアのウズベキスタン」の二つの共和国で撮ってきた写真と、土産物のクロスやマット、人形などの品々を展示した。

写真は両国の人々の姿や表情を写したもので、およそ二五〇枚。子供や笑顔が多く、地理的には遠く隔たっているが、人々の表情にはどこか懐かしさを覚えさせられる。「笑顔は文化を伝える最も有効な手段」という比喩もあるが、参観者の表情もなごんでいるように感じられ、「向丘から生まれるPRICES L E S S (貴重な・愉快な意)」という、向陵祭のテーマに彩りを添えることができたのではないかと思っている。(編集委員会)

向丘Uターン族のわたし

化粧品セミナー受講して



S 53年卒
鳥居 順子

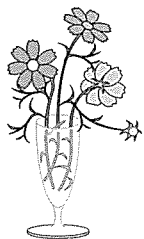
向丘を卒業後、初めて母校に足が向いたのは、三年前の同窓会のことでした。在校時にお世話になった米国在住の先輩が牧師としての経験を話されました。その梓だけに取まらない彼の生き方に感銘を受けました。懐かしいフォークソング部にも混ざってもらって同窓会のステージでは、三回も一緒に歌わせて頂き、日頃のストレスを忘れるひとときを過ごしました。

今年、秋のホームカミングの講習会にも初めて出席致しました。同窓会を通じて講師の小沢さんには、すでに顔なじみだったので楽しみにお話をうかがいました。小沢さんは、シナリーという化粧品を通して、合成製品や化学物質のたたらす恐ろしさをわかりやすく教えてくれました。きれいな化粧品と信じて、せっせと石油製品を塗りこめていた以前の自分を振り返ると怖いものと感じました。

必ずしも他者の製品が悪玉と言いつたら、極論だと思いますが、この時お手伝いくださった二十代から六十代のシナリーの社員の方々が羨望のため息がこぼれる程本物でした。彼女達がとても生き生きとされているのは、人の役に立っているという自信を持ってお仕事されているからなのでしょう。

私も女性のみで、ビジネスホテルを営んでおりますので、常日頃から、フロントさんに明るく愛想よくと指導している上で、この皆様の笑顔には、年齢や美貌などに関係なく、自分をステキに見せてくれる魔法だなぁとすっかり勉強させて頂きました。

先日は幹事会にも顔を出させて頂き、同窓会の企画運営、会報発行の裏方のご苦勞を垣間見させて頂きました。仕事やら家庭やらで自分のことだけで、精一杯になりそうですが地元で商売や生活を生き生きと続けていくように、これからも皆さんの先輩・後輩と知り合ってゆきたいと思います。もちろん、いつも明るい笑顔をお返しします!



活動だより

卒業五十周年を迎えての

七期生同期会



S30年卒
三谷 一郎

向丘の学びの庭を巣立つてから社会人となり気がつくとも五十年の月日が経過してしま

昔の仲間達の顔が懐かしく脳裏を過ぎります。平成十六年十月九日(土)、母校の多目的ホールを拝借しての同期会が企画・開催されました。七十名の出席予定者が見込まれ盛り上がり期待されましたが、台風二十二号の上陸と重なり出席者は四十二名と大幅に少なくなりました。

A組担任奥田先生とD組担任永尾先生が体調不良と雨風の強さの為に欠席となりました。校舎は平成十年に改築され、都内有数の近代的な設備で昔の面影を感じさせない教室でした。

八期生同期会(S31年卒)と部屋を仕切り共同での開催です。ほぼ全員が卒業以来五十年ぶりの母校訪問です。

台風の襲来を睨みながら午後一時から始まり午後三時半には慌しく閉会となりました。短い時間の中で昔の仲間と出合い無事を喜び確認する会となりました。

物故者は二十三名を数え、先月島根先生もご他界され仲間が葬儀に参列しました。

集会は受付で渡された卒業アルバムから作成されたクラス写真を見ながら、現状との容姿比較から話は急速に進む事となりました。学校から副校長も出席され「ようこそ母校へ」と歓迎のご挨拶を戴きましたが、我々が卒業の時はまだ生まれていないのではとの声も仲間から囁かれ五十年の時の永きを実感しました。JAZZ BANDの生演奏を聞きながら談

笑は進み、心地よい音楽で至福の時間が、それぞれの心に豊かで明るい灯を点しました。半世紀の時間の壁は取り払われ声を掛け合う仲間の弾んだ声に会場は満ちていました。ギター持参の山田順一君のリードで、ハモる仲間の唄の輪も暖かく広がりました。全員の記念写真とクラス別の写真も写され、後日全員に配布されましたが、光り輝く青春がそこに再現され年輪を重ねた面々がいい顔で写っていました。

集し、昔話に花が咲いて大いに活力を漲らせることが出来たことは偏に役員皆様方のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。しかし残念だったのは台風二十二号の関東地方上陸で交通機関のマヒ等から三十名の欠席者が生じ、多くは何の連絡も無かつたとのこと、開催当日終了まであれほど一生懸命努力されて、あれほどまでに盛大で楽しい同期会を運営くださったのに残念です。就きましては今回小額ですが同期会の会計に寄付を同封させていただきます。赤字の補填に役立ててくだされば幸いです。本当にありがとうございます。

当日は何か浦島太郎にもなった珍妙な気分に一瞬浸りました。いつまでも忘れません。

E組

荒井貴美子

同期の全体会はこの同期会で打ち止めとし、今後は親しい仲間やクラス別の小集会を企画してはと提案致しました。名残惜しげに風雨の強い中、散って行く仲間を見送り、同期会は暖かい余韻を胸に残し打ち上げと致しました。

同期会の終了後多くの仲間から嬉しいお礼状をいただきました。その中から次に三通をご披露いたします。



B組
山田 順一

「先日は大変懐かしい同期の会を開催して頂き誠に有難うございました。お蔭様でとても楽しい一時を過ごすことが出来、早速その時の記念写真をお送り下さいます。有難く厚くお礼申し上げます。

今年四月の同窓会にはじめて出席してその集まりの具合から今回の同期会も参加者が少ないのではないかと想像していましたが、当日はあのように大勢の同期生が嬉々として参

私は日暮里のホテルでの同期会以来の出席で鷹見さんに強くお誘いを受け、おそろおそろの出かけましたが、女子ばかりのE組は時間がたつにつれ昔の面影にたどりつきました。お世話係りの皆様のおかげで懐かしい方達と集えた日でした。

台風が来なければ人数も多かつたでしょう。ベニヤ板ばりのガタガタ校舎が立派になつて、でも向丘高校と言う名前が残ってくれて嬉しいことです。嵐の中の同期会ありがとうございました。

A組

葉山美佐子 (旧姓 徳永)

台風に見まわられた同期会でしたが、当日参加させて頂いた事を何よりも思っています。お蔭様で旧交を暖めることが出来、感謝致しております。早速に当日の写真をお送り頂きお礼申し上げます。皆さんそれなりの歳を重ねられて素敵に写っていました。今回の同期

会では大変なご負担をお掛けしたと推察し申し訳ない気持ちでおります。先ずはお礼までに。どうぞお休ご自愛ください。

台風襲来で最悪の参加者 それなりの対話を楽しむ



S31年卒
居村 正久 (D組幹事)

毎朝聞く朝賀君の声。相川、朝賀、居村に始まり山田照子、恭子、孝子、吉田嘉代子、茂子、智恵、そして芳野幸子に至る五四名居た八期D組が、上野タカラホテルで行われた第一回同期会(昭和六十年五月)には二十三名(総勢一一八名、先生十名)になり三回目の今回は返信二十三名中出席者八名(総勢二十名、先生一名)と云う



16.10.9 (土) 卒業50周年記念 於母校6階ホール

何んとも淋しい会になってしまいました。おまけに台風とぶつかり、新幹線も止まると云う最悪の状態での同期会でありましたが、久しぶりに逢うと、たちまちタイムスリップし、和気藹々な話はずみしました。もつぱら子供を通り越して孫の話、リタイヤ後の第二の人生設計等、年月を感じさせられました。外見や体力的には衰えを感じましたが、反対に語気も強く、ますます盛んであり、まだまだ現役であると思いました。

中には御主人を亡くされたり、子供に先立たれたりした方も居りましたが、早く元気になり、又お逢い出来るのを楽しみにして居ります。

毎回楽しいコピーでお誘い下さいます事務局の山本越子(福永)さんには感謝して居ります。許される限り続けて下さい。

ジャズ演奏に心弾み 良き思い出が涌出す



S 31年卒
高尾 和子
(旧姓 杉本)

十月九日(土) 八期同期会に大阪の八尾より参加しました。

卒業して以来約五十年ぶりの母校であります。台風襲来のせいかわ暗く夕闇迫る中、忘れかけている町並みを思い出しながら向丘高校の前にたどり着く。東京の町並みの様変わりもさりながら、まず大変立派な校舎の変貌に驚きました。

長らくのご無沙汰のお詫びの心持ちにて恐る恐る受付に近づくと、親しみの笑顔で待ち受けてくださった方に、心とまされ、本当に来て良かったと思いました。

日頃は学生たちの活気溢れる素敵な学び舎であろうと想像しながら整備された立派な校舎内を一足一足と進むうちになんとも言えぬ懐かしい感動がこみ上げてきて不思議な心地です。

会場では古希に近い年齢とはいえ、まだま

だ人生意気盛んな方ばかり、歯切れのいい東京弁のひびきも懐かしく、同窓の友にお会い出来たと自体とても嬉しく思えるのです。

ご高齢の先生方も出席され、バイキング料理も充分に、楽しいジャズ演奏にも心弾み、若やいだ気持ちになるのはやはり



16. 10. 9 (土) 31年卒同期会 於母校6階ホール

同期会ならではと思われれます。各自のお話も六十七年の人生の厚みをそれぞれに感じさせられるものがあり、人生いろいろ益々味わい深い年代に入ってきたと実感させられます。

私も亡き主人の跡を継ぎ二十七年になります、もう少し頑張らねばと勇気が湧いてまいりました。本当に時間の経つのも忘れ、楽しく嬉しいひと時を過ごさせていたただきとても幸せでした。有難うございました。

台風の襲来がなければよいのと思いがながら、御世話役員の方々のご苦勞や、小川会長のかめ細やかな心配りに深く感謝しながら、午後五時過ぎ向丘高校を退出しました。外はドシャ降り、風も強く本格的な台風襲来で、「新幹線も全面ストップ」、本当に忘れられない思い出深い同期会となりました。次の機会に又お会いできる事を楽しみに皆様どうぞお元気で益々のご活躍をお祈り致します。

同期会開催のスヌメ



S 52年卒
高村紀一郎

世界の都市の中でも一番魅力的な街、東京。その中でも、明治以降、学者や官吏が多く住み、「學者町」と呼ばれた一角にそびえたつ、我が母校向丘高校。そこで同じに学んだ諸先輩方、S五十二年卒同期生、そして後輩たち。新しく生まれ変わったすてきな校舎、その中で行われた充実した授業内容、尊敬する先生方。どれも誇りに思い、自分自身の大切な財産だと最近つくづく感じています。

このような素晴らしい向丘が、人気があり、入試倍率が高いのも当然で、卒業生として嬉しい限りです。

しかし現実には、毎日の雑務に追われて、時間が過ぎ去って行き、母校の事など思い浮かべ余裕など無く生活しています。

そこで、提案です!

「みなさん、それぞれの卒業年ごとの同期会を企画されたらいかがでしょうか?」どなたかが、音頭をとれば、意外と多くの人が集ってくれますよ。私達S五十二年卒の仲間も昨年、実に卒業二十五周年ぶりに同期会を開催し、とても楽しいひと時を過ごす事が出来ました。その流れで、クラス会や幹事会、当時親しかったグループの集り、また、(久しぶりに対面した、当時付き合っていた2人の密会) など、じつに様々な出会いの場が生まれました。

その仲間たちと話してみても、『そんな生き方もかっこいいな』『まだまだがんばらなくでは』『そんなふうにはなりたくないな』など、いろいろ考えさせられ、知らないうちに行動範囲や物の考え方が、自分の生活の小さな枠の中に限定されてきていた事を痛感しました。

自由な校風の向丘で学んだ仲間達は、多岐多才な職業で、また、常識にとられない発想で日本社会をそれぞれの方向でリードしてきているみたいです。『川の流れるように』地図さえない、それもまた人生、こんなすてきな歌詞がありましたよ。たしかに人生に地図はありませんよね。どっこのほうに向かっているのか全然解からなかった高校時代。なんとなく方向がぼんやりしながら見えてきた今日この頃。だけど、どの道が正しいのかはわかりません。

過多情報に戸惑う健康保持



S 32年卒 D組会
藤沢寿美子
(旧姓 竹内)

二年に一度開いている三Dクラス会を六月二十六日 新宿プリンスホテル内レストランで持つ事が出来ました。今回は他のクラスだった四人の方も参加して下さい、楽しく賑やかな会となりました。

開催お知らせに対する返信に、体調不良で欠席します、と云う方が増えてきました。当日の話題も健康に関する事が多かったです。出来たはずなのに、薬のお世話になったり、通院しています、との声が聞かれました。最近元気でいられるための情報が多過ぎて、どれをどの様に取り入れれば良いのか、逆にわかりづらくなっています。

昔から云われていた「好き嫌いをなく何でも食べて良く眠り、ほとんどに頭と身体を使う」それが一番なのでしょう。

お互いに元気でクラスの違いも加わって頂きながら、少し大きな輪のクラス会としてこれからは続けて行ける様に、と願っています。



16. 6. 26 新宿プリンスホテル25階 シャトレーヌ

名門向丘ラグビー部復活!?

元部員へのメッセージ



S 58年卒
野田 博之

平成十六年、十一月二十八日に久々のOB会を実施致しました。というのも、近年ラグビー部員数の減少の中、我が向丘ラグビー部もここ数年休部という状態で、実質OB会的な夏合宿も実施されていませんでした。

東京大会ベスト八まで進出したこともあるラグーマンたちも平均年齢が四十代を超え、なつかしい思い出、恩師への感謝の気持ちが高まり、人によつては十数年ぶりに母校に足を踏み入れることになりました。

参加者総勢二十三名、故矢萩文雄先生の遺影、歴代顧問の佐藤先生、重村先生、そして新たにスタートした向丘ラグビー部顧問の諫見先生とラグビー部を支え続ける方々もかけて下さいました。

人工芝にリメイクされたなつかしのグラウンドに飛び出し、楯円球を手を取れば、軽快なステップとスピード感あふれる突進の連続(くれぐれも自己評価です)で汗を流し楽しかった高校時代にタイムスリップすることができました。

(一応けが人はゼロです。) 激しく体を動かした後は、現年齢にもどりの居酒屋での交流となりました。

今回の集まりを機に、OB会による現役選手へ



の支援と毎年十一月の第四日曜日にOB会を実施することを決定しました。この文を読んだ方々の参加も心待ちしております。

ひろば

旧友と家族で仲好し温泉行



S 31年卒
梅田 博之

十一月の末に、学校時代(小中高)から親友であった三田君と私の家族三人で一泊の旅行をした。行き先は、近場の湯河原温泉に行つた。

幸い、天候にも恵まれ暖かく、時節柄木々の紅葉も盛りでひととき美しく映えていた。熱海の梅園をのんびりと散策した。

奥湯河原の温泉に宿をとつた。久し振りに温泉につかったが、野天の岩風呂があり、正に眼前に高い所から滝が落ち、風呂のそばには溪流が流れ、木々の紅葉と野趣そのものであった。

帰路にも湯河原の万葉公園に行つた。やはり紅葉を見ながらのんびり歩き散策を楽しんだ。私は、歌が好きで旅行中、歌を詠もうと思つて考えたりした。

久々の旅行であったが、その良さを改めて感じた。普段は日常の色々な事に追われて過ぎ、余裕等あまりないが旅行に行くとなつて自然に接し、宿での入浴、料理等ゆつくりと満喫でき、のんびりし日常のわずらわしい事、悩み等を忘れることができ心身ともにリラックスできる。

やはり人生には、このような余裕、楽しみが必要だろう。なかなか思い通りにできないかもしれないが、同い年、同じ事をするばかり等単純な生活はしたくない。旅行等気分を一新して、また明日の活力を養いたい。そして旅をして楽しい余生を送りたい。

教育の森公園での

かるがもの巣立ち



S 31年卒
三田 昌男

私はいま、旧教育大学の跡地に造られた教育の森公園でアルバイトをしている。その一角の占春園という庭園は江戸時代徳川光圀の弟、陸奥守山藩松平家の上、中屋敷であり、現在筑波大学附属小学校の自然観察園になっている。

今年の三月頃から鴨のつがい小さな池に時々見られる様になり、今年初めてひなが八羽生れた。

子鴨が親の後をよちよち歩き、池にかかった橋の下を親について、すいすい泳ぐ姿はかわいらしい。

庭園は自然の姿で良いが、カラスが多く、親は危険と思つたか、生れて一週間で三百米先の半円池に引越した。その時、子鴨は六羽に減つていた。この池は防火用水の為の人工池だが、文京区みどり公園課では急遽、池の中央に巣箱を設置し、鴨の親子が安心して休めるようにした。えさを鴨に毎日持つて来てくれる人、朝夕見にくる人、新聞の報道で知りカメラや携帯で撮る人等、地域の人の憩の場になった。親に見守られて、六羽の子が泳ぐ姿は愛らしく人の心をいやしてくれた。

七月中頃、親が子に羽を広げて、池の上を滑空する事を教えるようになった。八月初旬までに事故などで三羽に減つた。元気に残つた三羽は親について元気に泳ぐ。

八月十日頃には二羽が少し飛べるようになり、親がつきそつて巣立をした。もう一羽、生れた時から小さい子鴨だけが取り残された。

八月十四日に親と巣立した子鴨が一羽を迎えにくる。翌十五日に無事飛び立ち、巣立は終つた。

半円池の人気者のかるがもがいなくなり、もとの静けさに戻り、淋しくなつた。

時代の背景(その二)

物価のうつりから



S 31年卒
川端 春生
(旧姓 三橋)

石原慎太郎氏の小説「弟」が、テレビドラマになつて放映されました。生まれ育つた時代が似ているので興味があり、私たちの高校時代・昭和二十八・九年ごろの物価などを思い出そうと思ひました。しかし、すっかり忘れていて思い出せません。そこで、近くの区立図書館へ調べに行きました。図書館の方に聞いてみると、パソコンでなにやら見えて、「しばらくお待ちください」といつて、書庫へ行き、数分後に、「これなどでお分りになりましょうか」と、七・八冊の資料を探してきてくれました。親切な対応に感謝し、資料を見て高校のときを思い出しながら、いくつかを写し取りました。

- 〔都立高校の授業料〕
昭和二十八年・六千円
昭和三十一年・七千二百円
- 〔山手線の最低運賃〕
昭和二十六年・十円
昭和四十一年・二十円
- 〔都電の運賃〕
昭和二十六年・十円
昭和三十一年・十三円
- 〔都営バスの運賃〕
昭和二十六年・十五円
昭和四十年・二十円
- 〔私鉄の最低運賃〕
昭和二十八年・十円
昭和三十七年・二十円
- 〔そば一杯の値段〕
昭和二十八年・二十円
昭和三十六年・四十円
- 〔コーヒー一杯〕
昭和二十五年・三十円
昭和三十年・五十円

「ラーメン一杯」
昭和二十八年・三十五円
昭和三十一年・四十円

「週刊誌、朝日」
昭和二十六年・三十円
昭和三十六年・四十円

「ゴールデンバット」
昭和二十四年・三十円
昭和五十年・四十円

「ピース」
昭和二十六年・四十円
昭和四十三年・五十円

「新聞購読料、一月」
昭和二十七年・二百八十円
昭和二十九年・三百三十円

「料」となる
*昭和二十七年から朝刊と夕刊の両方の
料金をとる

「東京大学」
昭和二十七年・四百円
昭和三十三年・千円

「慶応大学」
昭和二十八年・二千五百円
昭和三十三年・三千円

「早稲田大学」
昭和二十八年・二千五百円
昭和三十五年・三千円

とにかく イカしたあの名場面



ちなみに、昭和二十八年の民間の一ヶ月の給料の平均は、一万六千七百四十一円、公務

員は、一万二千八百二十円でした。今回調べた資料は、週間朝日編の「新値段の風俗史」と同盟出版サービスの「物価と風俗、百三十五年のうつり変わり」です。どちらも明治・大正・昭和の時代について、主年代順に並べてあり、調べやすいものでした。興味や関心のある方は、ぜひ、最寄の図書館で楽しんでください。面白いです。



世界遺産と無形文化遺産

日本の遺産を中心として



三年程前から近くのNHK文化センターで、

「ふり世界遺産の旅」講座を受講している。講師は前日本ユネスコ協会事務局長吉岡淳生

であり、「なぜ世界遺産なのか」の認識を深めながら、世界遺産が社会に与える意味や意義を、

文明論的かつジャーナリスティックな視点から解説してくれる。「世界遺産 それは、かけがえのない 地球の記憶。」との

字幕で始まる民放TV番組のファンも多いのではないだろうか。

近年、「世界遺産」と言う言葉自体は広く知られるようになったが、その意義や定義などについては意外に知られていないのではないかと思う。そのため、前述の講座・書物等

からの引用ではあるが、世界遺産についての概要を記載し諸氏の参考に供したい。また、無形文化遺産についても触れたいと思う。

(一) 世界遺産条約：正式には、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」と言う。世界の貴重な宝ものを、国家や民族を超えた人類共通の宝ものとして捉え、それを護り、次世代に伝えていくことの大切さを唱えている国際条約である。一九七二年の第十七回ユネスコ総会で採択され、その締結国は現在約一八〇ヶ国にのぼる。日本は、一九九二年に百二十五番目の締結国となった。

(二) 世界遺産：地球の生成と人類の歴史によつて生み出され、過去から引き継がれた貴重な宝ものである。なかには人類の残酷な歴史を刻むもの、また戦争や自然災害、環境汚染などにより崩壊の危機に瀕しているものも含まれる。昨年(平成十六年)六月七月、中国・蘇州市で開かれた第二十八回ユネスコ世界遺産委員会により、新たに三十四件が世界遺産リストに登録された。世界全体では一三四ヶ国、七八八件になる。日本では、「紀伊山地の霊場と参詣堂」(通称「熊野古道」)(文化遺産・後出)が四年前の「琉球王国のグスク及び関連遺産群」(文化)に続いて登録され、話題になった。その他、「法隆寺地域の仏教建造物」(文化)、「白神山」(自然遺産・後出)、「白川郷・五箇山の合掌造り集落」(文化)、「広島平和記念碑(原爆ドーム)」(文化) などがあり、合わせて十二件となった。

(三) 世界遺産の種類とその定義の概要：以下の三種類があり、不動産が対象になっている。

- ①文化遺産(六一一件/日本は十件)：顕著な普遍的価値を有する記念工作物、建造物群、遺跡、文化的景観
- ②自然遺産(一五四件/二件)：鑑賞上、学術上、保存上、顕著な普遍的価値を有する地形や生物、景色などを含む地域
- ③複合遺産(二十三件/〇件)：文化遺産と自然遺産の両方の要素を兼ね備えている遺産

(四) 世界遺産候補(暫定リスト)：五十年を目途に世界遺産リストに登録する計画のある候補物件は、原則として暫定リストにまとめる必要がある。現在、日本では「古都鎌倉の寺院・神社ほか」、「平泉の文化遺産」など四件がある。その他、「小笠原諸島」についても準備が始まった。「知床」は、その推薦に基づいて現地調査が行われている。

(五) 無形文化遺産：二〇〇三年の第三十二回ユネスコ総会に於いて、民族文化財・フォークロア(風俗・習慣・信仰)・口承伝統などの文化を保護することを目的とした「無形文化遺産保護条約」が採択され(一九九九年、ユネスコ事務局長に就いた松浦元駐仏大使が尽力された)、三十ヶ国が批准すれば発効することになっている。それが先立ち、四十七件の候補が発表されているが、アフリカ・アジア諸国からの登録が多く、ヨーロッパ偏重の文化遺産の対極にあるものとして注目されている。日本では「能楽」と「人形浄瑠璃文楽」の二件が選ばれている。

人類の宝ものとして保護するための世界遺産ではあるが、「屋久島(自然)」のように反って観光客等による破壊が進んでいる例もあるようだ。世界遺産条約はそのリストへの登録を最終的な目的としているのではなく、その全ての遺産の保護を求めているのだと思う。旅も趣味の一つだから、これからは幾つかの世界遺産を訪ねる機会がある筈だが、地球人の一人としてそのことを忘れないようにしたいものだ。

体力維持に向かって

週一トレーニングを九年目

S 36年卒

近藤 宗一

高校を卒業してから四十年を超え、定年を迎えた。この間大きな病氣もせず、無事すごせたことをうれしく思っている。

しかしながら、歳とともに体力が落ちてきていることは疑いないことであり、身にしみて感じている。そのことを感じたのは何歳くらいのことであろうか。わたしは、五十代に入ってから感じた。

そのきっかけは二つある。ひとつは、通勤に使っていた地下鉄の階段の上り下りがぎつく感じられるようになってきたこと。もうひとつは、二千メートル級の山に登山したときである。

これ以上体力を落とさず、あわよくば体力を向上させるためにどうしたらよいかを考え、独りで歩くことや、ラジオ体操をはじめとした、独りだと億劫になったり、気分が乗らないなどして、中途半端になってしまふ。何とか継続して行うことができるものがないかと思つていたとき、区の健康センターで「健康増進コース」を設定して参加者を募つていくことを知つた。

このコースは、二日間にわたつて、血液検査、呼吸機能、体力測定や運動負荷試験、生活・栄養指導などを行い、その人にあつた運動メニューを作成してくれる。そのメニューに従つてトレーニングを行うことになる。

週一回は、必ず行うことに決めた。ここでは多くの年配者がトレーニングに励んでいる。続けているうちに顔なじみもでき、それが励みとなつて、継続して行うことができるようになり、九年目に入つている。定年後は、週二回にふやし、続けている。体力の維持もでき、体の調子もまずまずだ。

高齢化社会のなかで、また、数年後は「毎日が日曜日」になる時期をむかえて、少なくとも平均寿命まで生きつづけるには「健康」が第一番だと考え、今日もトレーニングに出かけていく。



S 41年卒
尾道 郁代
(旧姓 大橋)

“次世代へ直言を”と
恩師のつば

七月二十四日、四十一年卒の同期会に出席しました。長田英方先生と斉藤源三郎先生にお会いすることができました。斉藤先生のご挨拶の中で「世代交代で何を伝えるか」とのことばがありました。私は小さい頃から親やまわりの大人・先輩より多くのことを教えられてきました。還暦も間近い年になり若い人達や子供達にどれだけ伝えてきているのでしょうか。考えてみました。私の子供の頃は親に口うるさいくらい言動に対して躰られました。しかし、今、若い人に干渉しないようにと気を配るあまり耳ざわりなことを言うことを避けているように感じます。くりかえし言うことで身につくこと、覚えていくことがたくさんあると思います。

意識して、伝承していくことに積極的にとり組んでいかなければ若い人達が困る時代になってくると痛切に感じる今日このごろです。何年経つても先生です。気づかせていただいて有難うございます。

シエルティ犬“メイ”を
家族に迎えて生活変貌



S 47年卒
佐々木郁子
(旧姓 遠野)

昨年五月より犬を飼い始めた。五月一日生まれなので、名前はメイ。シエルティの女の子だ。以前、猫や小鳥を飼つたことはあつたが、犬は初めてだった。飼つてみて驚いたこといろいろあつた。

とにかく否応なくお相手が必要なことだ。猫や小鳥のようにほつておけないのは、正直言つて最初負担に思えた。子どもが巣立つて後は、大人ばかりの気ままな暮らしだったので、世話が必要なものの存在がうつつしかつた。自分の時間がどんどん削られていくように感じられ、家に縛り付けられるのがたまらなくもどかしかつた。

でもしかし、これも慣れるもので、黒目たちのつぶらな瞳でひたと見つめられて、どこ

に行くにも付いてくる思実さに、次第に心が奪われていった。

まず仕事から家に帰ると、耳を頭にピツタリと付けフルフルと体をふるわせて飛びついてくる。これが実に可愛い。顔を洗えば、足元に行儀よく座つて見上げてくる。トイレにはいれば、ドアの前ですつと座つて待っている。食事の支度をしている足元で、床の敷物のように腹這いになって体を伸ばし、できた食事を運ぶ度に踊るような足取りで付いてくる。

あんまり足元からみつくようにいるものだから、つい踏みつけてしまうことがある。そんな時、さすがにとがめるような目つきで見上げてくるが、「ごめんね」と一言謝ると、「わかりやいのよ」とばかりあつさり許してくれるのもいい。

メイの存在で退屈する暇がなくなつた。とにかく遊び相手に事欠かなくなつたのだから、一日があつという間に過ぎていく。メイとの散歩のおかげで、健康的にもなつた。春になったらまだ桜を知らないメイと一緒にお花見に行きたいと思う。桜が眺められてテラス席のあるレストランを今から探している。

お便り集

同窓会で S 29年卒

高野とも子
(旧姓 正津)

拝啓

先日同窓会ではお世話様になりました。二十九期生に五十年ぶりにお逢ひし昔の顔を思い出しながら、生徒達(吹奏楽部)のバンド演奏も素晴らしい、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。会長さんの御苦労が有ればお手伝い致します。微力ながら出来る事が有ればお手伝い致します。居ります。 (なるべく毎年参加したいと思つて居ります)

もう少し参加者が多くなりまして昔話にも花が咲くと思うのですが。

最後になりましたが写真を送つて頂きましてありがとうございました。良い記念になりました。

まずはお礼迄。

平成十六年五月

同期会御礼

S 30年卒
三谷 一郎

同期会の開催に際しては大変お世話様でした。

色々とお配慮を頂き感謝致しております。通信費沢山に頂戴し赤字の足しにさせてもらいます。

又沢山の写真をお送り頂き経費の請求をお願い致します。

仲間には橋本先生同席の記念として配布をするつもりです。

再会を楽しみに S 31年卒

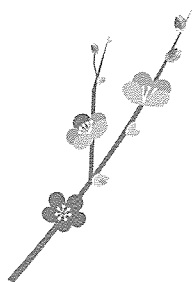
田中 澄子
(旧姓 小粥)

前略

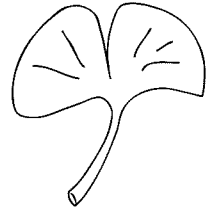
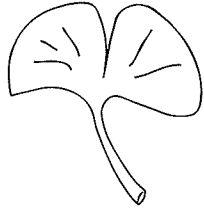
十月の同期会では色々とお迷惑をおかけした上に、先日は写真と共にご丁寧な品物を頂戴致しまして重ね重ねありがとうございます。皆様の写真を拝見していると五十年長いような短いような、ついこの前のように懐しく思い出されてきます。

今回は是非出席致しますので役員の皆様、どうぞよろしくお世話お願い致します。皆様にもよろしくお伝え下さいませ。

かしこ



寄付者・会費納入者一覧



平成16年度中に寄付金・年会費をお振込頂いた方々です。(敬称略)
 尚、3,000円以上の納入は寄付者扱いとして掲載させて頂きました。
 ご協力誠にありがとうございました。有効に活用させていただきます。
 尚、記載漏れがありましたらご連絡下さい。(締切17年2月20日)

寄付者名一覧

- ◆旧教職員
板井 哲夫
那須 哲順(浦井)
古田 恒
◆S25年卒
東雲 佳子(田川)
茅田喜久子(福田)
◆S26年卒
渡辺 信子(加藤)
◆S27年卒
佐藤 陽子
関岡 節子(東野)
◆S29年卒
金子 寛子(山中)
中村香代子
橋田美智子(山口)
山内 治雄
◆S30年卒
稲葉 祐吉
大島美智子(船)
掛川 恵右
中村 素子(河野)
前田 信子(山本)
山田 順一
◆S31年卒
天石 栄子(白鳥)
伊藤美知子(二橋)
居村 正久
梅田 博之
大江 昭子(渡辺)
小川 力洋
川端 春生(三橋)
佐藤 和子(安藤)
高尾 相子(杉本)
田中 澄子(小薮)
沼田 敬二
長谷川 博
松居 晃
三田 昌男
山本 越子(福水)
◆S32年卒
櫻井 弘清
◆S34年卒
石井 泰夫

会費納入名一覧

- 石山彼早子(佐伯)
佐山 周
永田 正博
◆S35年卒
五十嵐光俊
◆S36年卒
岩井 和子(大野)
久保田昌雄
田中 正明
松垣 宏道
◆S37年卒
寺村 光司
◆S38年卒
坂井 昭子(岡山)
◆S39年卒
庄司 和美(赤塚)
谷口 雅紀
◆S40年卒
山田 統一
◆S41年卒
青木 哲夫
伊藤 義則
尾道 郁代(大橋)
小室 民夫
長谷川三枝子(原)
原 淑子(近藤)
◆S42年卒
鈴木 裕司
◆S43年卒
榎本 裕子(高橋)
久郷 昭一
◆S44年卒
谷藤 優子(寺崎)
◆S45年卒
宮久保 渡
◆S46年卒
恩村 一郎
原田 幸子(笹山)
福尾 聰恵(吉田)
◆S47年卒
佐々木郁子
◆S48年卒
鈴木 恵子

- 田中 千晶(藤ヶ谷)
◆S49年卒
高見 健二
高見 節子(安原)
◆S53年卒
鳥居 順子
◆S55年卒
小沢 玉枝(小林)
◆S60年卒
宇佐美由美子(藤井)
◆S61年卒
今村 高志
◆S24年卒
井上 早苗(阿部)
黒坂 満子(山崎)
堀田 恵津(山田)
山田 絹子(逸見)
◆S25年卒
小田切成江(小林)
屋間 敦子
本多美代子(今井)
◆S26年卒
鎌田 美子(佐々木)
小岩 歌子(神田)
◆S27年卒
安土 靖子(川崎)
大井 弘子(市川)
太田 きよ(太田)
幸田 俊子(岩田)
児玉 恵子(児玉)
小林美恵子(俵)
酒井美代子
高橋 清子
津雲 貞子(松田)
長谷川千代(中沢)
原 晴子(鈴木)
◆S28年卒
岩松 英子(塚田)
内山 昂子(豊田)
江島 きく(荒川)
久保田慶子(佐々木)
黒川 淑洋
五島 珠江(藤)

- 澤谷 裕子(角田)
辻川 嘉朗
辻本佳津子(池亀)
中西多恵子(山田)
早船セツ子
◆S29年卒
荒木 彩生(三井)
稲垣 治重
岩本 信二
植村英三郎
小熊 孝
葛西 宏治
金子 節子(渡辺)
樺島恵津子(佐野)
上之園かほる(川崎)
篠崎 誠之
篠崎 健次
高野 芳子(金安)
高野とも子(正津)
武内 恭一
勅使川原鐵之助
百野 啓介
山内 義雄
◆S30年卒
加藤 貞子(岩永)
下里 和子(下里)
棚瀬 妙子(佐藤)
長縄 信孝
広江 英一
三浦 洋子
安河内恵美子(鷹見)
◆S31年卒
赤松利久子(岩本)
伊勢 武治
梶田 仍美(坂口)
水津 信雄
佐藤佐江子(森)
鈴木 世子
鈴木 やす代(源美)
土屋よし子(山本)
中島 徹
姫野千代子(近藤)
深瀬 恒矣
堀田とき子(小林)
堀江 幸子

- 村上 満男
望月 和恵(新保)
山 ●久磨
吉田美千代(比企)
◆S32年卒
鶴塚 美代(大竹)
大津 紀男
岡本 照子(中川)
小西 圭子(城)
春川 園子(勢)
◆S33年卒
諏訪 依子(田中)
中河 健男
植山榮次郎
乙部たみ子(新名)
小野沢勝彦
折本 輝子(増田)
川合美津子(堀切)
山口 洋子(上野)
茂木 昭雄
宮下紀恵子
永井 良子(樋口)
横山 正夫
渡辺 幸恵(岩永)
◆S43年卒
遠藤 曜子(安田)
尾池 紀子(浜口)
岡田 幸子(横倉)
正田 京子(菅倉)
須永 秀夫
◆S44年卒
秋谷 実
加藤 篤子(内藤)
松上 恵一
◆S45年卒
三池美恵子(朝倉)
◆S46年卒
荒井 昭雄(安藤)
石井 洋子
小池 二美(飯島)
門脇 泰子(福島)
永沢 治子(山本)
難波田久子(土井)
橋本 寿子(岩本)
堀 恵子(三村)
三浦みさ子(江島)
◆S36年卒
井沢 洋子(高橋)
今井 稔
海蓋 陸治
奥村 誠

- 芝崎 陽子(利根川)
田中 秀夫
塚原 元昭
寺尾ヒロミ
◆S37年卒
板谷 勝
今村 春江(星)
小黒 由明
河原 正史
北川 記万
齋 巖
佐藤 護武
杉浦 豊
高橋 立
坪井 節子(青木)
永井 良子(樋口)
原 真理(根岸)
巴田 京子
◆S42年卒
池ノ上政雄
橋川 道雄
柳田 照良
佐古岡まきみ(畑中)
横山 京子
◆S50年卒
永井すま子
◆S52年卒
五味 和之
坂爪 啓一
坂爪 明子(太田)
◆S53年卒
中沢香代子(近間)
◆S54年卒
松尾 佳子
◆S55年卒
近藤 秀二
坂下 道朗
鈴木 深雪(福倉)
◆S56年卒
恩田 益夫
恩田真紀子(田辺)
武智 弘英
◆S57年卒
飯岡 明子
兼島 孝
小室 豊
山口 努
◆S58年卒
梓澤 秀昭
石井 康一
菊田 敏
菊田美由紀(武藤)
旗野 敏弘
宮下 晋
◆S59年卒

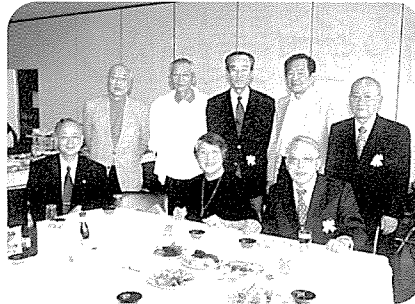
運営費にご協力をお願い
 会活動活性化に向け、ご提案・ご寄付・年会費
 等のお振込み方、ご協力をお願い申し上げます。

- 花野 浩
◆S60年卒
内田 明美(内田)
張 家禎
◆S61年卒
野村 典子(大沢)
野村 昌史
◆S1年卒
田上みゆき(野沢)
藤本 房子
◆S3年卒
堀江 由季
◆S6年卒
桑原 優子
野沢 智幸
◆S8年卒
菅井 良樹
◆S10年卒
高橋 美法
◆S14年卒
竹川 秀馬
土屋 佳澄
◆S16年卒
佐藤 卓弥
堤 賢悟
藤田 彩花

総会・懇親会模様 16年4月25日(日)



川端相談役
橋本先生
坂井先生
飯田副校長
梅沢来賓
小川会長



植村氏
高野氏
勅使河原氏
小川会長
葛西氏
武田氏
山田氏
篠崎氏



長谷川道
三田井
佐々木
杉浦小沢
笹山本
石山稲葉
山田小川
田中川端
(役員諸氏)



吹奏楽部の演奏



ブッア-ゴッツの演奏



フォークソングOB会等の演奏

ホームカミングセミナー (化粧品革命をめざして) 16年9月26日



同窓会コーナー前の役員方



セミナー会場



懇談会参加者一同 (含ご来賓)

草津おおるり合同旅行会 16年9月4~5日



有名まんじゅう店内から湯畑を望む



両の湯畑見物



送迎バス時間待ちの演芸会場

西日本大会パートII 於大阪八尾 大黒殿 16年6月26日(土)



第1期卒業生 美濃(河原)節子さんを囲んで



綺麗な円卓で和やかに



アトラクションに河内音頭を披露

高尾山(五九九米) ハイキングのお誘い

初回者歓迎(参加費用有意あり)

日 時 十七年四月三日(日)
小雨決行
集合場所 ◆京王線新宿駅(構内特急線ホーム前六車輦)
八時四十五分 出発九時以後十分華急二十分
特急あり
所要時五十分程
現地直行組
高尾山口駅 十時
出発十時十五分
駅前から頂上まで徒歩約百分(三・八km)
コース①
コース②
ケール又はリフト乗車組(下車徒歩四十分位)で頂上へ
急な坂道の分を利用して中腹まで上る
新宿(京王線)〜高尾山口(片道三七〇円)
山上(中腹)片道四七〇円(乗車のとぎ)
新宿〜高尾山口〜山上(往復一、四八〇円)休日割引額)
※弁当・飲物・雨具等持参のこと
対 象 会員・家族・一般
担 当 幹 事 三田昌男 梅田博之 (三十一年卒)

合同旅行会 会員募集

日 時 十七年九月三日(土)〜四日(日)
場 所 那須高尾温泉おおるり山荘(予定)
TEL 0287-76-6321
0120-582-865
参加費 一〇,〇〇〇円
一泊四食付(但し要入場料はオプション)
JR田端駅 午前七時四十五分 八時出発

申込〆切
送迎バス利用
旅行人数十五名以上
二十五名
先着順にて受付けます。
八月十五日までにお振込下さい。
郵便振替番号 〇〇一
一〇九五三八五一三
加入者名 都立向丘高
校同窓会(通信欄に旅行代と記すこと)
※少人数のときは、池袋発乗合バス利用に変更となります。

やよい俳壇

巴里祭元踊り子の飲みつぶり
S 27 森重竜郎(龍彦)
招待をことわり切れず風邪もらふ
S 27 小笠原錦子(旧姓 吉沢)
走り梅雨雲の色まだ明るくて
S 30 安河内恵美(旧姓 鷹見恵美子)
暮れて日のかけら散らかる石路の花
S 31 梶田仍美(旧姓 坂口)
置き直しても横を向き男難
S 31 麻生やよひ(山本越子 旧姓 福永)
檜 紀代吟
(S 31 佐藤令子 旧姓 安藤)
使ひ慣れふくるる辞典冬ぬくし

ご一緒に俳句を楽しんで見ませんか?卒業以来辞書とはご無沙汰という方がいまブームの『美しい日本語』をもう一度見直しましょう。四季の移り変わり、花の情報などにも詳しくなります。昔から伝わる祭や行事を見学に行きます。吟行を口実(?)国内はもとより、海外へも旅行に出かけます。あなたの考えるよりアクティブな俳句ライフへぜひご参加ください。
連絡先
麻生やよひ(山本越子 旧姓 福永)
TEL/FAX 03-65632174 809
e-mail fwiv5679@mb.infoweb.ne.jp

同窓会役員名簿

平成17(2005)年2月20日現在

役 職	氏 名 (旧姓)	卒 年	住 所	電 話 番 号
顧問	石 章二郎	歴代校長		
〃	佐々木 益 男	〃		
〃	新 城 昇 昇	〃		
〃	池 永 武 昭	〃		
〃	北 村 透 生	〃		
〃	北 村 正 生	〃		
名誉会長	石 井 隆 夫	校 長		
会 長	小 川 力 洋	31年卒		
副 会 長	三 田 昌 男	31年卒		
〃	杉 浦 重 治	40年卒		
会 計	尾 道 郁 代 (大橋)	41年卒		
〃	長谷川 三枝子 (原)	41年卒		
書 記	山 本 越 子 (福永)	31年卒		
〃	笹 山 幸 子	46年卒		
〃	佐々木 郁 子 (遠野)	47年卒		
会計監査	石 山 彼 早 子 (佐伯)	34年卒		
〃	寺 村 光 司	37年卒		
幹 事 長	櫻 井 弘 清	32年卒		
西日本地区幹事	高 尾 和 子 (杉本)	31年卒		
事務局	飯 田 幸 男	副校長		
相談役	稲 葉 祐 吉	30年卒		
〃	川 端 春 生 (三橋)	31年卒		
〃	田 中 正 明	36年卒		
〃	千 田 二 仁 江 (樋口)	59年卒		

